

2017年は‘わんりい’にとって記念すべき年であった。8月に創立25周年を迎える年の春、長年に亘る日中友好活動への貢献が評価され、日中学院創設者である倉石武二郎先生を記念する倉石賞受賞の栄に浴した。この二重の喜びを形にしたいと話し合いを重ねた結果、中国文化センターのご協力を得て「果てしなく広がる黄色い大地の華 陝北剪紙」展を開催することが決定した。

会期は5月14日から18日で、中国文化センター(虎ノ門)を会場にして600点を超える陝北剪紙作品を展示した。展示準備では会のメンバー多数が額の設置に協力くださったが、慣れない仕事で開幕準備はかなり手間取り、中国文化センターの職員の方に心配をお掛けした上、手助けを頂いて何とか間に合わせることが出来た。ざっと催しを振り返ってみたい。

◆14日(初日)3時から開幕のイベントとして、**銭騰浩さんの笙と曹雪晶さんの二胡演奏**。続いて、日中学院・学院長の片寄浩紀先生と中国文化センターの石永菁センター長ご臨席で展覧会が開幕した。

### 【プログラム】

#### 1)寺西俊英代表による当会の歴史と活動内容紹介

#### 2)片寄日中学院学院長の御祝辞

祝辞の中で先生が初めて中国を訪問された折にお土産に剪紙を買われたとのお話もあり、中国の民間に伝わる文化代表として剪紙の存在が大きいことを改めて感じた。

#### 3)田井光枝前代表による展示剪紙の見どころ紹介

今回展示の剪紙は、①全て鋏で剪られたもの、②収集当時、他地域との関わりが少なかった陝北黄土高原地帯の厳しい生活環境を生き抜くための祈りの剪紙作品であること、③現地の生活が変わり今はスタイルが変わってきて、現地の民間芸術として節目にある頃の作品である。

#### 4)古参会員・木村武司さんの音頭で乾杯

乾杯のビールは青島ビールを用意。棗やサンザシ

等の干菓子等が並んでささやかに開幕を祝う。

### 5)お楽しみビンゴ

#### ◆15日:

#### 1)講演会「中国の剪紙～黄河の西と東～」

(講師: 首都大学非常勤講師・三山陵博士)

当展覧会・展示作

品の故郷である黄河

西の陝西省(鋏使用)

と黄河東の河北省蔚<sup>うっ</sup>県の剪紙(刻刀使用)を対比して紹介。中国剪紙が地方によって異なることを知ることができた。

#### 2) 版画家・写真家であり安徽財形大学元教授の周路氏から拝借した剪紙収集当時の「陝北黄土高原・暮らしと人々」写真をスライド上映

#### ◆16日: ‘わんりい’としてのイベントなし

◆17日: 映画「黄色い大地」(監督: 陳凱歌 / 撮影: 張<sup>チャン</sup>イーモー) 上映。映画だけで50名以上の参加があり、それぞれ陝北剪紙の故郷に思いを寄せて頂けたと思う。

◆最終日18日は午前中だけの展示だったが、開場同時に来場の方や終了後に来場の方があり、短い時間にも拘らず来場者30名に達した。

会場に置いたアンケートでは、多くの方が展示品の数の多さに驚き、同時に作品のパワーを強く感じておられた。黄土高原での生活の様子をもっと知りたいとの回答もあり、また、人間はどんな厳しい環境にいても美しいものを生み出す力があることに感動したとの回答もあり、今回の催しの意義を知って嬉しく思った。都心での活動は何かと大変ではあったが、来場者の感想に励まされ、最終日には会期の短さが残念なように思えた。

最後に、中国文化センターの職員の方のご協力を深く感謝申し上げたい。

(報告: ‘わんりい’事務局)



日中学院院長による祝辞



開幕を待つばかりの舞台



銭騰浩さん（中国笙）と曹雪晶さん（二胡）  
演奏による開幕イベント



代表・寺西俊英さんの挨拶



会場入り口正面に掲げられた  
山田美智子さんの書による看板



ビンゴや語り合ったりとオープニングパーティが続く



中国小物が当たるお楽しみビンゴでワクワク



三山陵先生の講演は満席(80名)を超えた(5月15日)



陕北剪纸満載の額がずらりと並んだ会場風景